へ 5
5680

門 へ 8
號 5680
巻

この集や河の彩傑是ヶ百韻と
[illegible]
三人[illegible]は名殊の[illegible]して
後の世[illegible]の[illegible]
梅[illegible]ひとしく[illegible]
其の[illegible]人と佛名
雅游の路[illegible]

梅裡 識

早稲田大學圖書

枝[illegible]や 梅の花 　梅裡

雨の[illegible]子 　雅游

[illegible]て 　京[illegible]

[illegible] 　桂

[illegible] 　游

[illegible]の[illegible] 　[illegible]

清き実りまき酒くまぬ庵あり　程

離て志らぬ顔をすりけれ　渉

姑の家まきいて修業未帰中　嘯

新姑修業よまさる菊藕　程

捨てきてかゝぬ名の日和まん　渉

歌める舟のゆくしくする　嘯

篠入のよい連して来みこしくらし　程

何実り扉しき鮭の味なし　渉

風のの帆先陣ありとこそ打の拍　嘯

真白ちらさともの古傳ける　程

茶席よ池の広縁夕くらくす　渉

さゝ乃子を破る謎子の雛さき　嘯

果親をしらてさしても用と新し　程

萬なる手持てき又かくめ也　嘯

陶中の深くまさうれ深きの穴　渉

こん来実れ玉川の里　程

駕籠をいそぐ通ふやるお堂し跡さ　嘯
菖蒲湯まで力も笛鈴の鳴る　渉
柿色の羽織毎日ありて秋もの九　社
繝実志まつ老人宝ちまし　嘯
いふならず通ふものを渉りまる　渉
時いとはなりあら形に鳴　社
夕ぐれの笛の形に撫られて　嘯
鳥飼の葉も背広で来る　渉

西山の色黒は見えて涼しさよ　社
夜り鳴ふ雨色てはやらぬ越　嘯
酒飲まま行て家ぬの肴潜　渉
河渡ら聞らん世の後梅らん　社
菓の蝶乃虫ま折しと言はれき　嘯
ひとつ咲て黒く走つまりの類　渉

濃い茶を呑にとりて野部さわぐ　素嵐
わらんぢしめる岸の陽炎　梅社
山の肌皆まるくして閑なり　羽湖
かゝる縁は[illegible]の出る　嵐
さしてみる菊の[illegible]のうへかふり　社
障子張らるゝ表若の冷　湖

人ちまちに信濃[illegible]ゆれけれ　嵐
足の[illegible]を[illegible]しける　社
昨の子は嘘[illegible]京に取て　湖
男の親はとらん家まゝ　嵐
姪[illegible]て[illegible]てもよい[illegible]　社
深く[illegible]かまら色　湖
木兎の[illegible]の[illegible]て[illegible]　嵐
[illegible]　社

乃やうを遣しまつ天窓つき　渉
門徒坊主の医者になりけり　喧
西鶴か芝に孫小座内をしての　程
また行水をやるとぬるまぬ　渉
梅売の追ひ出すものも夜ちくの九　喧
表ありて三も涼ぬ枝　村　渉
実け出しも麸も新しの細仕事　程
東風の吹て人出健か　喧

松深く一二の客居陽わすれ　渉
仲女中達の縁みつゝ　程
いろくはおもれぬ聲てと云ふ　喧
素人芸とは祖の役　渉
月もなし廐六本に待つる　程
何変え清く見宵の梅裏　喧
立数を引板の祈りとも絶　渉
道共して つくねんとする　程

川よみ比呪はよとまと文あるぬとも　暁

小皿手出つるとしよ梅干　湖

行燈の蔓の捩りは毛をはえて　程

鳥羽ゆるすと山家百姓　暁

うしろは花を摘すり非いふあ　湖

毎はまゐまさしまの宿　程

山の月きよきを花をうしろの揺　拝湖

舳ゝもひとりすゝむ渺りしら　京暁

小舟まあけてわたりてまいりて　梅程

蔵まさんとき猿の汁ちらし　湖

四五日も用しらるの宿の舟　暁

秋の月もまはれ出雨となりけり　程

霧こもる葡萄年貢の改かな　渉
名人の相撲をほめる玉扇　喚
負をもあれはほる梱の豆蔵　程
家つゝき蝶押まはる見たれし　渉
云ふほしとあるまし年神の降けて　喚
清施よへやりと夜深く　程
甲にうち男はかりてまちかねる　渉
比丘尼の頭を出せと叱つきる　喚

急ぎ二階楊子のさりとて　程
大きう霧にぬれ候ふ山寺　渉
咲きもせぬ岸の萩や刈取て　喚
笊の湊にて袋中掃く星　程
年味わすき出ぬましはわき釈　渉
とろ〳〵夜とつ二朱のとぎし　喚
大川に沖渉ったふて流し　程
まれ〳〵に墓を有きて去る泥　渉

掃よせる鍵一本に待けるり　程

仕へはあまたに又女房喚ふ　嘯

古布を法師の着衣のやぶれ身の　洲

いつとはなしにいはゞ短[illegible]　程

捨ちらぬ背中をあてゝ新まくら　嘯

冬籠を風にとらるゝ　洲

是よりはまだ朝かい鴬のこゑ　程

とんとう鳴る音萩し氷水　嘯

花入に鳥さしはさまる春の先　洲

海老を飯前に煮しつて飯なる　程

事はるの下まで身代伴しまうて　嘯

七日法事にゆかう滴栄　洲

緒さしを捨ていやしき寺の法　程

栄まつのしよ蓋の影　嘯

文久紀元辛酉晩春

広重 [illegible]書